

(様式第 10)

医板病公発第 83 号
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

管理者 病院長 増田 英

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒102-8275 東京都千代田区九段南四丁目8番24号
氏 名	学校法人日本大学 理事長 田中英壽

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

日本大学医学部附属板橋病院

3 所在の場所

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30番1号	電話(03) 3972 - 8111
-------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 血液内科 2 腎臓・内分泌内科 3 糖尿病・代謝内科 4 循環器内科 5 呼吸器内科 6 消化器・肝臓内科 7 神経内科 8 心療内科 9 漢方内科 10 小児内科 11 新生児内科 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1 消化器外科 2 心臓外科 3 血管外科 4 小児外科 5 呼吸器外科 6 乳腺・内分泌外科		
7 形成外科 8 疼痛緩和外科 9 10 11 12 13		
14		
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科
8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科
14放射線治療科 15麻酔科 16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科 2 リハビリテーション科 3 4 5 6
7 8 9 10 11 12 13
14 15 16 17 18 19 20
21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43床	0床	12床	0床	982床	1037床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	496人	104.0人	600人	看護補助者	29人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	5.2人	13.2人	理学療法士	13人	臨床検査技師	102人
薬剤師	60人	0.2人	60.2人	作業療法士	2人	衛生検査技師	0人
保健師	86人	0人	86人	視能訓練士	11人	その他	0人
助産師	39人	0人	39人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	882人	12.2人	894.2人	臨床工学技士	24人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	5人	0人	5人	栄養士	2人	その他の技術員	19人
歯科衛生士	5人	1.0人	6人	歯科技工士	1人	事務職員	93人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	72人	その他の職員	5人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年9月1日現在)

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	23人	眼科専門医	15人
外科専門医	38人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	13人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	38人	脳神経外科専門医	18人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	10人
産婦人科専門医	16人	救急科専門医	10人
		合計	231人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	779.6人	3.2人	782.8人
1日当たり平均外来患者数	2149.2人	62.1人	2211.3人
1日当たり平均調剤数	外来分 31.9 剤 入院分 838.9 剤		
必要医師数	213人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	28人		
必要(准)看護師数	485人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	1027.387 m ²	鉄筋コン クリート	病床数	53床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 53.77m ² [移動式の場合] 台数 15台			病床数	4床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 21.22m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	416.34m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析機 Labospect008, 免疫科学自動分析機 Cobas3000			
細菌検査室	107.44m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感受性分析装置 ライサ スエニー, 血液培養装置 BACTEC			
病理検査室	135.48m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動固定包装装置, 自動染色装置, クリオスタット, パーチャルスライド機			
病理解剖室	82.73m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台3台 (L型昇降式1台含), パーソナルプロテクションシステム3セット			
研究室	27.28m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン, 顕微鏡, 電子カルテ			
講義室	194.27m ²	鉄筋コンクリート	室数 4	室	収容定員	125人
図書室	1015.10m ²	鉄筋コンクリート	室数 2	室	蔵書数	201,522冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年 4月 1日～平成26年 6月30日	
紹介率	64.26%	逆紹介率	45.06%
算出根拠	A: 紹介患者の数		2,018人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		1,668人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		361人
	D: 初診の患者の数		3,702人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
前眼部三次元画像解析	10人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性がある、HER2が陰性に限る)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	定位(体幹部)照射	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 体幹部の限局した小腫瘍に線量を集中させる技術。当病院では肺がんに対して行っている。JCOG放射線治療グループのJCO40403という臨床試験が終了しており、これに基づいて治療を行っている。			
医療技術名	定位(脳)照射	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 脳腫瘍に線量を集中させる技術で、γナイフやサーバーナイフが広く知られているが当病院では、ライナックで行っている。			
医療技術名	HDR-RALS	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 high dose rate remote after loading systemの略で、遠隔操作式後充填照射装置を示す。当病院では主に子宮頸がんに対して行っている。子宮内腔、腔内に線源を挿入して治療を行う。			
医療技術名	I-125 Brachytherapy	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 前立腺内に小線源を配置する治療法。当病院では、術前・術後プランを作成し挿入している。			
医療技術名	大動脈瘤に対するハイブリット手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 大動脈瘤(広汎なもの)に対してステントグラフトと開胸手術を併用する治療			
医療技術名	補助人工心臓による心不全治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 補助人工心臓を心不全患者に適用して循環を維持する治療			
医療技術名	肝尾状葉切除術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 尾状葉に存在する原発性肝癌、転移性肝癌に対する肝切除術			
医療技術名	脾頭十二指腸切除術	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 脾臓癌及び胆管癌に対する手術手技			
医療技術名	右開胸開腹食道亜全摘術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 食道癌に対する頸部、胸部、腹部の3領域を郭清する手術手技			
医療技術名	咽頭喉頭食道摘出血行再建を含む遊離空腸置換	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 頸部食道癌に対する根治術。耳鼻咽喉科、形成外科、消化器外科にまたがる3科共同手術			
医療技術名	肝尾状葉合併切除術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 原発性肝癌、転移性肝癌に対する尾状葉を含めた肝切除術			
医療技術名	腹腔鏡下副腎摘出術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 低侵襲外科医療として、腹腔鏡下にて副腎を摘出する手術			

医療技術名	腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 腎悪性腫瘍や尿路上皮腫瘍に対する腹腔鏡下手術			
医療技術名	腹腔鏡下後腹膜腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腹膜腫瘍に対する腹腔鏡下手術			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腎盂尿管移行部狭窄症に対する腹腔鏡下による尿路形成術			
医療技術名	腹腔鏡下尿管摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 尿管遺残に対する腹腔鏡下手術			
医療技術名	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 前立腺悪性腫瘍に対するミニマム創手術			
医療技術名	経尿道的前立腺手術(前立腺核摘出術(TUEB))	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 前立腺肥大症に対する手術であり、大きな腫瘍でも開腹せず経尿道的治療が可能			
医療技術名	膀胱悪性腫瘍手術(全摘+代用膀胱を利用して尿路形成を行うもの)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 膀胱悪性腫瘍に対する自然排尿式代用膀胱造設術を尿路変更して行う			
医療技術名	新生児脳低体温療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 重症仮死で出産した児の低酸素性虚血性脳症に対して脳細胞の保護を行う			
医療技術名	一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧の児に対して肺高血圧の改善のため行う			
医療技術名	高頻度振動換気法(HFO)	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 生理的な呼吸回数を著しく超えた換気回数で行う人工換気法 新生児呼吸窮迫症候群の児や体便吸引症候群、新生児気胸の児に対して行う			
医療技術名	頭蓋内圧モニタリング	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 交通外傷などにより頭蓋内出血をきたした症例に対して頭蓋内圧モニタするためのセンサーを挿入する			
医療技術名	血液浄化療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 持続血液透析濾過療法			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	93人	・膿疱性乾癬	9人
・多発性硬化症	96人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	193人	・原発性胆汁性肝硬変	414人
・全身性エリテマトーデス	846人	・重症急性膵炎	6人
・スモン	9人	・特発性大腿骨頭壊死症	24人
・再生不良性貧血	106人	・混合性結合組織病	150人
・サルコイドーシス	217人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	12人	・特発性間質性肺炎	91人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	259人	・網膜色素変性症	59人
・特発性血小板減少性紫斑病	292人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	23人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	468人	・神経線維腫症	4人
・大動脈炎症候群	35人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	7人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	24人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	76人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	59人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	11人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	706人
・悪性関節リウマチ	24人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	788人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	58人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13人
・後縦靭帯骨化症	50人	・肥大型心筋症	110人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	3人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	54人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	45人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	28人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	1人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	640人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料1・2	・神経学的検査
・外来緩和ケア管理料	・補聴器適合検査
・移植後患者指導管理料(臓器胞移植・造血幹細胞移植)	・コンタクトレンズ検査料1
・糖尿病透析予防指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・小児科外来診療料	・内服・点滴誘発試験
・院内トリアージ実施料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・外来放射線照射診療料	・画像診断管理加算1
・ニコチン依存症管理料	・遠隔画像診断
・地域連携診療計画管理料(脳卒中・大腿骨)	・CT撮影及びMRI撮影
・地域連携診療計画退院時指導料(Ⅰ)・(Ⅱ)	・冠動脈CT撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・心臓MRI撮影加算
・がん治療連携指導料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・がん治療連携管理料	・外来化学療法加算1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・無菌製剤処理科
・薬剤管理指導料	・脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ
・医療機器安全管理料1・2	・運動器リハビリテーション料Ⅰ
・歯科治療総合医療管理料	・呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
・造血器腫瘍遺伝子検査	・がん患者リハビリテーション料
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・集団コミュニケーション療法料
・検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・認知療法・認知行動療法2
・植込型心電図検査	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・時間内歩行試験	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・胎児心エコー法	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)

・医療保護入院等診療料	・エタノール局所注入(甲状腺に対するもの)
・透析液水質確保加算2	・エタノール局所注入(副甲状腺に対するもの)
・一酸化窒素吸入療法	・歯科技工加算
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・組織拡張期による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術, 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・網膜再建術	・人工内耳植込術, 植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年 9回 開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 60 例 / 剖検率 13.20%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
多分化能を有する脱分化脂肪細胞含有人工真皮による新規な皮膚再建法の開発	副島 一孝	形成外科	5,330,000	補委 日本学術振興会
脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた凍結同種皮膚移植と自家培養表皮移植の検討	仲沢 弘明	形成外科	5,070,000	補委 日本学術振興会
脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた血流不全組織の救済法の検討	櫻村 勉	形成外科	29,900,000	補委 日本学術振興会
インフルエンザウイルスと口腔・気道細菌との相互作用の機序と呼吸器の疾患重症化の病態解	亀井 聡	神経内科	5,400,000	補委 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
ニューロモデュレーションセンター構築と医療連携	亀井 聡	神経内科	1,000,000	補委 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
日本脳炎並びに予防接種後を含む急性脳炎・脳症の実態・病因解明に関する研究	亀井 聡	神経内科	2,800,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
東京・関東甲越地区におけるスモン患者の現状調査及び取りまとめ	亀井 聡	神経内科	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
結核性髄膜炎における薬物代謝関連遺伝子多型に基づくオーダーメイド治療の開発	亀井 聡	神経内科	600,000	補委 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
アストロサイト制御による脳損傷の治療	茂呂 修啓	脳神経外科	4,030,000	補委 文部科学省
パーキンソン病の視床下核単一ニューロン活動分析によるβ帯域オートレグレーションの解明	小林 一太	脳神経外科	4,160,000	補委 文部科学省
パーキンソン病に対する脳深部刺激療法と薬物療法を融合した適正な治療戦略の検討	深谷 親	脳神経外科	3,120,000	補委 文部科学省
脳卒中後疼痛に対する脊髄刺激によるニューロモデュレーション	山本 隆充	脳神経外科	4,550,000	補委 文部科学省
乳癌におけるミトリアDNA-Dループ領域変異解析を用いた癌細胞系譜の解明	増田 しのぶ	病理診断科	2,687,059	補委 文部科学省
(23-A-3)病理診断の均てん化と質的向上のための基盤・新規技術開発に関する研究	増田 しのぶ	病理診断科	1,200,000	補委 独立行政法人国立がん研究センター
がん病理診断DB,ITシステム開発	増田 しのぶ	病理診断科	21,488,000	補委 独立行政法人 新エネルギー・産業・技術総合開発機構

脂質代謝とオートファジーに着目した乳腺アポクリン癌の代謝機構の解明	瀧之上史	病理診断科	4,570,000	補委	科学研究費
次世代シーケンサー・包括的エピゲノム解析による肝がん多段階発癌遺伝子の同定	高山 忠利	消化器外科	11,900,000	補委	文部科学省基盤研究(A)
切除不能大腸癌に対する抗癌剤感受性予測遺伝子による個別化医療の実践	緑川 泰	消化器外科	4,000,000	補委	文部科学省基盤研究(C)
3D画像解析による外科手術教育定量的評価法の開発	中山 壽之	消化器外科	1,430,000	補委	文部科学省基盤研究(C)
ボトムアッププロテオミクスを応用した多因子遺伝性疾患感受性遺伝子検索	中山智祥	臨床検査医学科	1,700,000	補委	学術振興会科研費
PIポリアミドによるMYC下流遺伝子の発現抑制と抗腫瘍効果の検討	相馬正義	総合科(内科)	1,000,000	補委	学術振興会科研費
ゲノム化学に基づく先進医療開発研究拠点	相馬正義	総合科(内科)	17,000,000	補委	文科省私立大学戦略的研究基盤形成
ナノ物質を基盤とする光・量子技術の極限追求	相馬正義	総合科(内科)	28,710,000	補委	学術研究戦略プロジェクト(N. 研究)
携帯型心電計を用いた疫学的・医学的調査と遠隔医療の推進	笠巻祐二	総合科(内科)	15,000,000	補委	平成22～26年度日本心臓財団研究助
心疾患患者における12誘導心電図を用いた新規ベクトル表示変換法・表示法の有用性について	橋本賢一	総合科(内科)	720,000	補委	日本大学医学部
心肺停止蘇生後に対する体性感覚誘発電位を用いた脳低温療法の適応に関する研究	守谷 俊	救命救急センター	1,690,000	補委	科学研究費補助金(文部科学省)
心肺停止蘇生中での肺冷却による頭部冷却法の開発	櫻井 淳	救命救急センター	390,000	補委	科学研究費補助金(文部科学省)
Th17細胞系蛋白が前眼部慢性炎症・感染において果たす役割の解明	山田 愛	眼科	900,000	補委	日本学術振興会振興会科研費若手B
遺伝性不整脈疾患の遺伝子基盤に基づいた病態解明と診断・治療法の開発に関する研究	住友 直方(研究分担者)	小児科	1,500,000	補委	厚生労働省
特発性慢性蕁麻疹の病態解明と新規診断法確立	照井 正	皮膚科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	照井 正(研究分担者)	皮膚科	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
遺伝子の異常メチル化による悪性黒色腫の早期鑑別診断	篠島 由一	皮膚科	1,043,460	補委	独立行政法人日本学術振興会

独創的3次元血管内イメージング流体解析による急性冠症候群発症機序解明と治療法開発	廣 高史	循環器内科	1,800,000	補 委	科学研究費
ソフトコンピューティングによるリアルタイム高性能動脈硬化診断システムの実用化	廣 高史	循環器内科	2,000,000	補 委	科学研究費
GLP-1受容体作動薬によるプラーク安定化の継続的評価と機序の解明	平山 篤志	循環器内科	1,400,000	補 委	科学研究費

計 35 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	櫻村 勉	形成外科	False-negative monitoring flap in free jejunal transfer	JOURNAL OF RECONSTRUCTIVE MICROSURGERY 29 p137-40 2013
2	副島一孝	形成外科	Wound dressing material containing lyophilized allogeneic cultured cells.	Cryobiology 66 p210-14 2013
3	副島一孝	形成外科	Endoscopic transmaxillary repair of orbital floor fracture.: A minimally invasive treatment.	Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery 47p368-73 2013
4	前田英明	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	Early and late outcomes of inflammatory abdominal aortic aneurysms: comparison with the outcomes after open surgical and endovascular aneurysm repair in literature reviews	INTERNATIONAL ANGIOLOGY, 32(1): 67-73, 2013
5	Morita A	神経内科	Relationship between quantitative electroencephalogram and interferon- α -induced depression of hepatitis C patients	Neuropsychobiology 2013;67:122-126
6	Hara M	神経内科	Isoform transition from four-repeat to three-repeat tau underlies dendrosomatic and regional progression of neurofibrillary pathology	Act Neuropathologica 2013;125:565-579
7	瀬在 明	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	Results of Low-Dose Carperitide Infusion in High-Risk Patients Undergoing Coronary Artery Bypass Grafting	The Annals of Thoracic Surgery, 96(1):119-126, 2013
8	瀬在 明	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	Comparison of Febuxostat and Allopurinol for Hyperuricemia in Cardiac Surgery Patients(NU-FLASH Trial)	Circulation Journal, 77(8):2043-2049, 2013
9	瀬在 明	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	Atrial fibrillation after coronary artery bypass grafting	General Thoracic and Cardiovascular Surgery, 61(8):427-428, 2013
10	瀬在 明	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	Atrial Fibrillation After Cardiac Surgery	Circulation Journal, 77(9):2244-2245, 2013
11	瀬在 明	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	Long-Term Results of Dialysis Patients with Chronic Kidney Disease Undergoing Coronary Artery Bypass Grafting	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 19(6):441-448, 2013
12	村松 高	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	Lobar emphysema with pneumothorax in an adult: report of a case	Surgery Today, 43(5): 539-541, 2013
13	Yamaguchi H, Matsumoto S, Ishibashi M, Hasegawa K, Sugitani M, Takayama T, Esumi M	Department of Pathology, Digestive surgery, Nihon University School of Medicine,	β -Glucuronidase is a suitable internal control gene for mRNA quantitation in pathophysiological and non-pathological livers.	Experimental and Molecular Pathology 95(2):131-135, 2013.

14	Ileyashi C, Chishima F, Sugitani M, Ichikawa G, Nakazawa-Watanabe T, Sugita K, Suzuki M, Nomoto N, Yamamoto T	Department of Gynecology, Pathology, Nihon University School of Medicine,	Relationship Between Toll-like Receptor-4 and mPGES-1 Gene Expression in Local Lesions of Endometriosis Patients.	Am J Reprod Immunol 2013 Mar;69(3):231-9
15	Yamazaki S, Takayama T, Iwama A, Okada S, Midorikawa Y, Moriguchi M, Nakayama H, Higaki T, Sugitani M.	Department of Digestive Surgery, Pathology, Nihon University School of Medicine,	Good candidates for a third liver resection of colorectal metastasis.	World J Surg. 2013;37:847-53
16	Sunegawa K, Omagari D, Nishiyama M, Asano M, Okudera M, Sugitani M, Nemoto N, Komiyama K.	Department of Pathology, Nihon University School of Medicine, Nihon University School of Dentistry	Distinct functional regions of the human polymeric immunoglobulin receptor.	Scand J Immunol. 2013 Oct;78(4):339-44
17	Kato K, Sugitani M, Matsukawa Y, Suto H, Moriyama M, Soma M.	Division of General Medicine, Pathology, Division of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine,	Long-term gastric plasmacytoma follow-up after Helicobacter pylori eradication.	Gastrointest Endosc. 2013 Apr;77(4):674-5.
18	Yoshida N, Midorikawa Y, Kajiwara T, Yoshida N, Nakayama H, Sugitani M, Takayama T.	Department of Digestive Surgery, Pathology, Nihon University School of Medicine,	Hepatocellular Carcinoma with Sarcomatoid Change without Anticancer Therapies.	Case Rep Gastroenterol. 2013, Mar 22; 7(1):169-74.
19	Hojo A, Nakayama H, Arumaki O, Higaki T, Moriguchi M, Sugitani M, Miura K, Takeuchi J, Nishiyama R, Moriyama M, Takayama T.	Department of Digestive Surgery, Pathology, Nihon University School of Medicine,	Diagnostic value of open biopsy for malignant T-cell lymphoma of the liver.	Int Surg. 2013 Jan-Mar; 98(1): 13-8.
20	Watanabe N; Omagari D; Yamada T; Nemoto N; Furuya T; Sugito K; Koshinaga T; Yagasaki H; Sugitani M.	Department of Pathology, Pediatric Surgery, Nihon University School of Medicine,	Anaplastic sarcoma of the kidney: case report and literature review.	Pediatrics International. 2013 Oct;55(5):e129-32
21	佐野 誠	病理診断科	Activated Wnt signaling in stroma contributes to development of pancreatic mucinous cystic neoplasms	Gastroenterology,2014 Jan;146(1):257-67
22	Noriko Watanabe, Daisuke Omagari, Tsutomu Yanada, Noriichi Nemoto, Takeshi Furuya, Kiminobu Saito, Tsugunobu Koshinaga, Hiroshi Yagasaki and Masahiko Sugitani	Departments of Pathology, Pediatric Surgery and Pediatrics, Nihon University School of Medicine, Department of Pathology, Nihon University School of Dentistry	Anaplastic sarcoma of the kidney: a case report and review of the literature	Pediatrics International 55(5): e129-132, 2013
23	楡井 和重	消化器・肝臓内科	Rapid Recovery from Acute Liver Failure Secondary to Pancreatoduodenectomy-Related Non-Alcoholic Steatohepatitis	Case Report in Gastroenterology 7(1),49-55,2013
24	松村 寛	消化器・肝臓内科	Histopathology of type C liver disease for determining hepatocellular carcinoma risk factors	World Journal of Gastroenterology 19(30),4887-4898,2013
25	松本 直樹	消化器・肝臓内科	B-flpw imaging of vascular structure for the diagnosis of tumor	Journal of Medical Ultrasonics 40(4),409-415,2013
26	里村厚司	臨床検査医学科	Comment on 'p.E66Q mutation in the GLA gene is associated with a high risk of cerebral small-vessel occlusion in elderly Japanese males'	European journal of neurology 2014 Aug;21(8):e62. doi: 10.1111/ene.12459.
27	中山智祥	臨床検査医学科	Basal cell nevus syndrome: New mutation of the patched homologue 1 gene.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 2014 in press
28	中山智祥	臨床検査医学科	A Haplotype of the GOSR2 Gene Is Associated with Essential Hypertension in Japanese Men.	Clinical Biochemistry 46(9):760-765, 2013.
29	中山智祥	臨床検査医学科	Glucocorticoid synthesis related-genes: HSD11B1 and HSD11B2 in hypertensive disorders in pregnancy.	Gynecological Endocrinology 29(7):657-661, 2013.
30	中山智祥	臨床検査医学科	Correlation between mean platelet volume and blood glucose levels after oral glucose loading in normoglycemic and prediabetic Japanese subjects.	Journal of Diabetes Investigation 5(1):66-71, 2014.

31	中山智祥	臨床検査医学科	Gender differences in the relationship between serum uric acid and mean platelet volume in a Japanese general population.	Platelets. 25(3):202-206, 2014.
32	中山智祥	臨床検査医学科	Correlation between serum lipids and 1-hour postload plasma glucose levels in normoglycemic individuals.	Journal of Clinical Lipidology. 8(2):217-222, 2014.
33	中山智祥	臨床検査医学科	Serum Triglyceride Levels Correlated with the Rate of Change in Insulin Secretion Over Two Years in Prediabetic Subjects.	Annals of Nutrition and Metabolism 64(1):38-43, 2014.
34	中山智祥	臨床検査医学科	Study of a newly developed high-performance liquid chromatography analyser for glycosylated haemoglobin measurements in blood containing haemoglobin variants in the Japanese population.	Annals of Clinical Biochemistry 2014
35	岡田 一義	腎臓・高血圧・内分泌内科	Randomized trial of frequent low-efficiency and short hemodialysis/hemofiltration in hemodialysis patients with acute brain injury.	Int J Artif Organs. 2013;36(11):793-802
36	藤田 宣是	腎臓・高血圧・内分泌内科	Diminished complement-activating capacity through the classical pathway in sera from type 2 diabetes mellitus.	Immunol Invest. 2014;43(2):170-81.
37	丸山 範晃	腎臓・高血圧・内分泌内科	Changes to prothrombin international normalized ratio in patients receiving hemodialysis.	Int J Clin Pharmacol Ther. 2013;51(4):283-7.
38	鈴木 亮	腎臓・高血圧・内分泌内科	Effects of an angiotensin II receptor blocker on the impaired function of endothelial progenitor cells in patients with essential hypertension.	Am J Hypertens. 2014;27(5):695-701.
39	(Abe M, Okada K, Soma M.)	腎臓・高血圧・内分泌内科	T-type Ca channel blockers in patients with chronic kidney disease in clinical practice.	Curr Hypertens Rev. 2013 Aug;9(3):202-9.
40	(Suzuki H, Abe M, Tahira K, Ito M, Takashima H, Baba S, Okada K, Soma M.)	腎臓・高血圧・内分泌内科	Successful treatment of pheochromocytoma in a patient with hemodialysis: a case report and review of the literature.	Ren Fail. 2013;35(10):1429-33.
41	(Abe M, Okada K, Suzuki H, Yoshida Y, Soma M.)	腎臓・高血圧・内分泌内科	T/L-type calcium channel blocker reduces the composite ranking of relative risk according to new KDIGO guidelines in patients with chronic kidney disease.	BMC Nephrol. 2013 Jul 1;14:135.
42	(Ikeda K, Fukuda N, Ueno T, Endo M, Kobayashi N, Soma M, Matsumoto K.)	腎臓・高血圧・内分泌内科	Role of complement 3a in the growth of mesangial cells from stroke-prone spontaneously hypertensive rats.	Clin Exp Hypertens. 2014;36(1):58-63
43	(Ito M, Abe M, Maruyama T, Suzuki H, Inoshita A, Okada K, Soma M.)	腎臓・高血圧・内分泌内科	Pneumatosis cystoides intestinalis and hepatic portal venous gas on peritoneal dialysis.	Clin Nephrol. 2013 May 14.
44	(Kato K, Sugitani M, Matsukawa Y, Sato H, Moriyama M, Soma M.)	総合科(内科)	Long-term gastric plasmacytoma follow-up after Helicobacter pylori eradication.	Gastrointest Endosc. 2013 Apr;77(4):674-5.
45	(Kato K, Ohkusa T, Teraso S, Chiba T, Murakami K, Yano A, Uehara T, Ishii Y, Soma M, Tajiri H.)	総合科(内科)	Adjunct antibiotic combination therapy for steroid-refractory or -dependent ulcerative colitis: an open-label multicentre study.	Aliment Pharmacol Ther. 2014 May;39(9):949-56.
46	(Kasamaki Y, Izumi Y, Ozawa Y, Ohba M, Tano A, Watanabe I, Hirayama A, Nakayama T, Kawamura H, Ihmit D, Mahemuti M, Sezai A.)	総合科(内科)	Relationship between status of plasma atrial natriuretic peptide and heart rate variability in human subjects.	Heart Vessels. 2013 Mar;28(2):208-14.
47	(Sezai A, Soma M, Nakata K, Hata M, Yoshitake I, Wakui S, Hata H, Shiono M.)	心臓外科	Comparison of febuxostat and allopurinol for hyperuricemia in cardiac surgery patients (NU-FLASH Trial).	Circ J. 2013;77(8):2043-9.

48	(Sato A, Nagase H, Obinata D, Fujiwara K, Fukuda N, Soma M, Yamaguchi K, Kawata N, Takahashi S.)	泌尿器科	Inhibition of MMP-9 using a pyrrole-imidazole polyamide reduces cell invasion in renal cell carcinoma.	Int J Oncol. 2013 Nov;43(5):1441-6.
49	(Uekusa S, Kawachiwa H, Sugito K, Yoshizawa S, Shinajima Y, Iserachi J, Ghosh S, Wang X, Fujiwara K, Ikeda T, Koshihara T, Soma M, Nagase H.)	小児外科	Nr4a3, a possible oncogenic factor for neuroblastoma associated with CpG methylation within the third exon.	Int J Oncol. 2014 May;44(5):1669-77.
50	東風 貢	消化器外科	Phase II Study of Neoadjuvant Chemotherapy with S-1 and CDDP in Patients with Lymph Node Metastatic Stage II or III Gastric Cancer.	Am J Clin Oncol 2014 [Epub ahead of print]
51	荒牧 修	消化器外科	Decreased blood loss reduces postoperative complication in resection for hepatocellular carcinoma/	J Hepatobiliary Pancreat 21;585-591:2014
52	東風 貢	消化器外科	Differing deregulation of HER2 in primary gastric cancer and synchronous related metastatic lymph nodes.	Diagnostic Pathology 8;191:2013 doi:10.1186/1746/1596-8-191
53	中山 壽之	消化器外科	Proposal of objective morphological classification system for hepatocellular carcinoma using preoperative multiphase computed tomography.	J gastroenterology 2013 [Epub ahead of print]
54	望月 晋	消化器外科	Repeat liver resection for hepatocellular carcinoma complicating primary biliary cirrhosis.	Int Surg 98;424-427:2013
55	高木 恵子	消化器外科	DNA hypermethylation of zygote arrest 1 (ZAR1) in hepatitis C virus positive related hepatocellular carcinoma.	Springerplus 2;150:2013
56	山崎 慎太郎	消化器外科	Donor-specific tolerance induction in organ transplantation via mixed splenocytes chimerism.	Clin Exp Immunol 173;173-178:2013
57	田部井 英憲	消化器外科	Pharmacokinetics of docetaxel in gastric cancer patients with malignant ascites.	Cancer Chemother Pharmacol 71;727-731:2013
58	Kimura S	脳神経外科	Acute aggravation of subdural fluid collection associated with dural metastasis of malignant neoplasms:case report and review of the literature.	Brain Tumor Pathol Sep15 2013
59	KobayashiK,Lenz FA	脳神経外科	Thalamic post-inhibitory bursting occurs in patients with organic dystonia more often than controls.	Brain Research 1541 81-91 2013
60	Moro N,sutton RL	脳神経外科	Glucose administration after traumatic brain injury improves cerebral metabolism and reduces secondary neuronal injury.	Brain Research 1535 124-136 2013
61	Yanamoto Takamitsu	脳神経外科	Deep Brain Stimulation and Spinal Cord Stimulation for Vegetative State and Minimally Conscious State.	WORLD NEUROSURGERY 80 S30.E1-S30.E9 2013
62	Kobayashi Kazutaka,Fukaya Chikashi	脳神経外科	Simulation to Locate Burr Hole Sites in a Patient for Deep Brain Stimulation Surgery and Clipping of Intracranial Aneurysm.	NEURIMOLATION 16 51-54 2013
63	Yanamoto Takamitsu	脳神経外科	On-Demand Control System for Deep Brain Stimulation for Treatment of Intention Tremor.	NEURIMOLATION 16 230-235 2013
64	Sidikejiang Wupuer,Yanamoto Takamitsu	脳神経外科	F-Wave Suppression Induced by Suprathreshold High-Frequency Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation in poststroke Patients with Increased	NEURIMOLATION 16 206-211 2013

65	Matsumura Yuhei, Yanamoto Takamitsu	脳神経外科	Comparison Between Pharmacologic Evaluation and Repetitive Transcranial magnetic Pain patients/	NEURIMOLATION 16 349-354 2013
66	Fukaya Chikashi	脳神経外科	Fatal Hemorrhage From AVM After DBS Surgery:Case Report.	NEURIMOLATION 16 414-4147 2013
67	Kinoshita K, Sakurai K, Yamaguchi J, Furukawa M, Tanjoh K.	救命救急センター	Delayed augmentation effect of cytokine production after hyperthermia stimuli.Molecular	Biology 48: 371-376, 2014
68	Azuhata T, Kinoshita K, Kawano D, Komatsu T, Sakurai A, Chiba Y, Tanjoh K	救命救急センター	Time from admission to initiation of surgery for source control is a critical determinant of survival in patients with gastrointestinal perforation with associated septic shock	Crit Care. 2; 18(3):R87, 2014
69	Kinoshita K	救命救急センター	Possibility of predicting neurological outcome using regional cerebral oxygen saturation (rSO2) after cardiac arrest	Resuscitation. 2014 May 23. pii: S0300-9572(14)00553-X.
70	Tagami R., Moriya T., Kinoshita K. and Tanjoh K.	救命救急センター	Bilateral tension Pneumothorax related acupuncture	Acupuncture in Medicine 31(2):242-244, 2013
71	Moriya T., Tagami R., Furukawa M., Sakurai A., Kinoshita K. and Tanjoh K	救命救急センター	A case of traumatic hematoma in the basal ganglia that showed deterioration after arrival at the hospital	Acta Neurochirurgica Supplement 118:147-150, 2013
72	Titus David J, Atsushi Sakurai, Kang Yuan	救命救急センター	Furones Concepcion, Jergova Stanislava, Santos Rosmary, Sick Thomas J, Atkins Coleen M: Phosphodiesterase inhibition rescues chronic cognitive deficits induced by traumatic brain injury	The Journal of neuroscience 33(12): 5216-26, 2013
73	Tomohide Komatsu, Kosaku Kinoshita, Atsushi Sakurai, Takashi Moriya, Junko Yamaguchi, Atsunori Sugita, Rikimaru Kozawa, Kazuhisa Tanjoh	救命救急センター	Shorter time until return of spontaneous circulation is the only independent factor for a good neurological outcome in patients with postcardiac arrest syndrome	Emergency Medicine Journal, Online First, published on May 2, 2013 as 10.1136/emmermed-2013-202457
74	Hayamizu F, Yamazaki Y, Nakagami T, Mizuki K	眼科	Optic disc size and progression of visual field damage in patients with normal-tension glaucoma.	Clin Ophthalmol 7: 807-813, 2013
75	Nakajima M, Aso H, Nakayasu K:	眼科	Efficacy of pneumatic displacement with 40-degree downward gaze positioning for treatment of submacular hemorrhage: report of two cases.	Clin Ophthalmol 7:1027-1029, 2013
76	Yasuji Inamo	Deartment of Pediatrics,Nihon University	A Japanese pediatric patient with coexisting systemic lupus erythematosus and familial Mediterranean fever	Lupus [2013, 22(10):1056-1059]
77	Yasuji Inamo	Deartment of Pediatrics,Nihon University	Subacute thyroiditis in a patient with juvenile idiopathic undergoing etanercept treatment: a case report and review of the literature	Modern Rheumatology Mar 2013, Vol. 23, No. 2, Pages 397-400
78	Tatsuo Fuchigami	Deartment of Pediatrics,Nihon University	A 4-year-old girl with clinically mild encephalopathy with a reversible splenic lesion associated with rotavirus infection	Journal Infect Chemother. 2013 Feb;19(1):149-53.
79	Ttsuhiko Urakami	Deartment of Pediatrics,Nihon University	Clinical characteristics of non-obese children with type 2 diabetes mellitus without involvement of β -cell autoimmunity	Diabetes Research and Clinical Practice Volume 99, Issue 2, February 2013, Pages 105-111
80	Ttsuhiko Urakami	Deartment of Pediatrics,Nihon University	Insulin resistance at diagnosis in Japanese children with type 2 diabetes mellitus	Pediatrics International Volume 54, Issue 4, pages 516-519, August 2012
81	Tetsuji Morimoto	Deartment of Pediatrics,Nihon University	Phenotype variability in nephrogenic diabetes insipidus due to p.D85N mutation in the arginine vasopressin receptor 2 gene	Nephrology Volume 18, Issue 5, pages 390-391, May 2013

82	鼻田 優子	皮膚科	Significantly High levels of Anti-ds DNA Immunoglobulin E in Sera and the Ability of ds DNA to Induce the Degranulation of Basophils from Chronic Urticaria Patients	Int Arch Allergy Immunol 161:154-158,2013
83	(Tano A, Kasamaki Y, Okumura Y, Chita M, Koike T, Fujii N, Akawa Y, Nakai T, Kunimoto S, Hiro T, Watanabe I, Hirayama A.)	循環器内科	Major determinants and possible mechanism of dobutamine-induced left ventricular outflow tract obstruction in patients with a sigmoid ventricular septum.	J Cardiol. 2013 Jun;61(6):428-35.
84	(Masakatsu Ohta, Yuji Kasamaki, Yukio Ozawa, Atsushi Hirayama, Toshihiro Nakayama, Hiroshi Kawamura, Daisuke Ito, Masayoshi Soma, Yoichi Izumi)	循環器内科	Combined Effects of Blood Pressure and Aldosterone on Cardiac Left Ventricular Mass Index—Ethnic Differences between Kazakh, Uygur and Han Subjects	World Journal of Cardiovascular Diseases, 4, 99-105.
85	Toshiko Nakai	循環器内科	Diagnosis of coronary spastic angina by implantable loop recorder	Europace, 15, 662, 2013
86	Hiroaki Mano, Yasuo Okumura	循環器内科	Potential anatomic substrate of peri-atrioventricular nodal atrial tachycardia ablated from the noncoronary sinus of Valsalva.	J Interventional Cardiac Electrophysiology, 36, 297-306, 2013
87	Shunichi Yoda	循環器内科	Diagnostic Value of Automated Quantification of Nuclear Cardiology in Japanese Patients with Single Vessel Coronary Artery Disease: Comparison between Japanese and American Normal Databases	Journal of Cardiology, 62, 224-229, 2013
88	Tadateru Takayama	循環器内科	Plaque stabilization by intensive LDL-cholesterol lowering therapy with atorvastatin is delayed in type 2 diabetic patients with coronary artery disease—Serial angiographic and intravascular ultrasound analysis.	Journal of Cardiology, 61, 381-386, 2013
89	Atsushi Hirayama	循環器内科	Assessing the Cardiovascular Risk Between Celecoxib and Nonselective Nonsteroidal Antiinflammatory Drugs in Patients With Rheumatoid Arthritis and Osteoarthritis - A 3-Year Nationwide Comparative Observational Study in Japan (ACCEPT) -	CIRCULATION JOURNAL, 78, 194-205, 2013
90	Atsushi Hirayama	循環器内科	Effects of Evolocumab (AMG 145), a Monoclonal Antibody to PCSK9, in Hypercholesterolemic, Statin-Treated Japanese Patients at High Cardiovascular Risk.	CIRCULATION JOURNAL, 78, 1070-1082, 2013
91	Shunichi Yoda	循環器内科	Validation of Automated Quantification of Nuclear Cardiology in Japanese Patients using Total Perfusion Deficits: Comparison with Visual Assessment	Journal of Cardiology, 63, 350-357, 2013
92	Yasuo Okumura	循環器内科	Effect of catheter tip-tissue surface contact on three-dimensional left atrial and pulmonary vein geometries: potential anatomic distortion of 3D ultrasound, fast anatomical mapping, and merged 3D CT-derived images.	Journal of Cardiovascular Electrophysiology, 24, 259-266, 2013
93	Hiroaki Mano, Yasuo Okumura	循環器内科	Potential anatomic substrate of peri-atrioventricular nodal atrial tachycardia ablated from the noncoronary sinus of Valsalva.	J Interventional Cardiac Electrophysiology, 38, 27-34, 2013
94	Kazumasa Sonoda, Yasuo Okumura	循環器内科	Three Dimensional High-Density Bipolar Contact Mapping of Left Atrial Endocardial Activation During Sinus Rhythm in Patients with Atrial Fibrillation	International Heart Journal, 25, 285-288, 2013
95	Kazumasa Sonoda, Ichiro Watanabe	循環器内科	Rate-dependent electrophysiologic effects of the class III antiarrhythmic drugs, nifekalant, amiodarone, and ibutilide on the atrium in patients with persistent atrial fibrillation.	Int Heart J, 54, 279-284, 2013
96	Takafumi Hiro	循環器内科	Three Stars of the Constellation of Color Intravascular Ultrasound in the Space of Tissue Characterization of Coronary Plaque	Journal of cardiology, 61, 186-187, 2013
97	Ayako Tano, Yuji Kasamaki	循環器内科	Major determinants and possible mechanisms of dobutamine-induced left ventricular outflow tract obstruction in patients with a sigmoid ventricular septum.	Journal of cardiology, 61, 428-435, 2013
98	Kofune Masayoshi, Yasuo Okumura	循環器内科	Comparative distribution of complex fractionated atrial electrograms, high dominant frequency (HDF) sites during atrial fibrillation and HDF sites during	J Interv Card Electrophysiol, 36, 297-306, 2013

99	Kimie Ohkubo, Icuro Watanabe	循環器内科	Brugada syndrome in the presence of coronary artery disease	Journal of Arrhythmia, 29, 211-216, 2013
100	Kimie Ohkubo, Icuro Watanabe	循環器内科	Supraventricular tachyarrhythmia in patients with Brugada syndrome: A single-center study.	Journal of Arrhythmia, 29, 265-269, 2013
101	Kimie Ohkubo, Icuro Watanabe	循環器内科	Prevalence and significance of the early repolarization pattern in inferolateral leads in patients with Brugada syndrome: A single center study.	Journal of Arrhythmia, 28, 273-276, 2013
102	Daisuke Kitano, Atsushi Hirayama	循環器内科	Miglitol improves postprandial endothelial dysfunction in patients with acute coronary syndrome and new-onset postprandial hyperglycemia	Cardiovascular Diabetology, 12, 92, 2013
103	Kimie Ohkubo, Icuro Watanabe	循環器内科	Alcohol-induced ventricular fibrillation in a case of Brugada syndrome	Europace, 15, 1058, 2013
104	Naoko Sasaki, Yasuo Okumura	循環器内科	Pulmonary vein remnant as a trigger site for atrial fibrillation	CIRCULATION JOURNAL, 77, 494-496, 2013

計 104

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	瀬在 明	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	開心術後心不全に対する治療戦略	Fluid Management Renaissance, 3(2):160-167, 2013
2	瀬在 明	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	心臓手術周術期管理における β 遮断薬の役割	臨床医のための循環器診療, 20:25-28, 2014
3	四万村 三恵	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	【肺癌の治療戦略 緩和医療と疼痛管理】在宅緩和療法	日本臨床, 71(6):644-647, 2013
4	田中 洋子	日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野	肺原発悪性黒色腫の1例	日本呼吸器外科学会雑誌, 28(1):96-101, 2014
5	増田 しのぶ	日本大学医学部 病態病理学系 腫瘍病理学分野	Invasive micropapillary carcinoma of the breast	病理と臨床 31:326-327, 2013.
6	増田 しのぶ	日本大学医学部 病態病理学系 腫瘍病理学分野	日常病理診断における課題3:分子マーカーの判定と遺伝子異常	病理と臨床 31:970-975, 2013.
7	増田 しのぶ	日本大学医学部 病態病理学系 腫瘍病理学分野	—病理学会の精度管理への取り組み—	Histo-Logic Japan 41:10-13, 2013
8	中山 智祥	臨床検査医学科	特集 新型出生前診断の検査診断4. 検査精度について。	医療と検査機器・試薬 36(5): 594-600, 2013.
9	中山 智祥	臨床検査医学科	TOPICS 高血圧症の感受性遺伝子とその単離法について。	日本臨床生理学会雑誌 43(3): 97-104, 2013.
10	中山 智祥	臨床検査医学科	ハプロタイプを用いた関連解析の効用。(総説)	日本臨床検査自動化学会会誌. 39(2):157-165, 2014.
11	中山 智祥	臨床検査医学科	遺伝子医療の現状とゲノム医療の近未来、遺伝子医療・ゲノム医療を支える社会基盤、人材養成4: ジェネティックエキスパート	週刊医学のあゆみ 第1土曜特集号、医歯薬出版。2014.
12	中山 智祥	臨床検査医学科	コンパニオン診断の進展 — 個別化医療を進めるために — 認定制度ジェネティックエキスパートの立ち上げ。	臨床病理レビュー特集号。2014.
13	中山 智祥	臨床検査医学科	内分泌・代謝疾患。新・検査値のみかた。	中外医学社。2014.
14	中山 智祥	臨床検査医学科	ますます臨床利用がすすむ遺伝子検査—その現状と今後の展望そして課題—第1章. 実用化へ向かう次世代シーケンサーとその周辺6. 遺伝子関連検査におけるネットの活用とその人材育成。	遺伝子医学MOOK メディカル ドゥ。2014.
15	中山 智祥	臨床検査医学科	「症候編」マグネシウム異常症	今日の診断指針 医学書院 2014
16	木下 浩作	救命救急センター	臨床的問題	脳死 へるす出版 pp159-165, 2013
17	木下 浩作	救命救急センター	救急医療の現状と気道異物による窒息への対応	耳鼻咽喉科展望 57; 2; 8-14, 2014

18	木下 浩作	救命救急センター	神経保護・神経再生	救急・集中治療医学レビュー 2014-15 総合医学社 pp338-343, 2014
19	木下 浩作	救命救急センター	低体温療法 心停止後症候群 心拍再開後のケア、神経モニター	救急医学 38; 5: 577-582, 2014 へるす出版 東京
20	木下 浩作	救命救急センター	心停止後症候群患者に対する低体温療法の指針	救急・集中治療ガイドライン pp26-28, 2014 総合医学社 東京
21	木下浩作, 林成之	救命救急センター	脳低温療法	第4版 脳神経外科 周術期管理のすべて ジカルビュー社 pp384-392, 2014
22	守谷 俊	救命救急センター	心停止後症候群の体温管理	救急医学 37:1091-1095, 2013.
23	守谷 俊, 木下浩作	救命救急センター	持続脳波モニター(モニタリング)	救急・集中治療 25: 1322-1330, 2013
24	守谷 俊	救命救急センター	妊産婦の脳血管障害の初期対応	産科と婦人科 81:632-637, 2014
25	守谷 俊	救命救急センター	蘇生後脳症の管理, ER診療の実際	pp.164-178, 医学出版, 東京, 2013
26	守谷 俊	救命救急センター	一次救命処置(BLS) -成人	今日の治療指針 2014 年版 pp.73-76, 医学書院, 東京, 2014
27	守谷 俊	救命救急センター	脳microdialysisおよび脳組織酸素分圧, Post-Cardiac Arrest Syndrome	pp.108-113, 総合医学社, 東京, 2014
28	野田彰浩, 守谷俊, 丹正勝久	救命救急センター	神経保護・神経再生	救急・集中治療医学レビュー2010 総合医学社: 162-168, 2014
29	山口順子, 櫻井 淳, 守谷 俊, 木下浩作, 丹正勝久, 増田光一	救命救急センター	災害拠点病院の本格的な拠点化のための4つの要素	安全医学. 9:1-8:1-8, 2013
30	櫻井 淳	救命救急センター	ICUで行われる脳神経外科患者に対する脳低温療法	BRAIN 3:236-241, 2013
31	櫻井 淳	救命救急センター	選択的脳冷却法 体温 測定から管理まで	救急医学 へるす出版 pp1065-70 2013
32	櫻井 淳	救命救急センター	セングスターケン・ブレイクモアチューブ留置法	今日の治療指針2013 医学書院 p104 2013
33	櫻井 淳	救命救急センター	第6章 脳死の臨床的な問題 臨床問題3 酸-塩基の障害	脳死 へるす出版 pp 159-160 2013
34	櫻井 淳	救命救急センター	第6章 脳死の臨床的な問題 臨床問題4 電解質異常	脳死 へるす出版 pp 159-160 2013
35	櫻井 淳	救命救急センター	非心原性心停止での脳低温療法	心停止における心拍再開後のケア へるす出版 pp 88-95 2013
36	河野大輔, 櫻井淳, 木下浩作	救命救急センター	ポリペクトミー術後、「腹痛で眠れない」と訴え。不眠時の対応だけでいいのかどうか...	この症状! 絶対コール! 照林社 pp 66-72 2013
37	櫻井 淳	救命救急センター	アトロピン、虚血、起立性低血圧、キリップ分類、駆出率、グルカゴン、半自動式除細動器、心不全	救急用語事典 パーソン書房 8, 211, 213, 233, 240, 468, 522-23 2013
38	櫻井 淳	救命救急センター	1-3 生命の維持と蘇生	救急検査指針 へるす出版 pp 11-12 2013

39	櫻井 淳	救命救急センター	1-4 救急初期診療	救急検査指針 へるす出版 pp 11-12 2013
40	櫻井 淳, 木下 浩作	救命救急センター	脳代謝のモニタリングの原理と妥当性	インテンシヴィスト 特集 神経集中治療 メディカルサイエンスインターナショナル pp 544-559 2013
41	吉田 淳, 原 雄将, 佐藤幸裕, 川島秀俊	眼科	裂孔原性網膜剥離に対する強膜内陥術後に生じた交感性眼炎の1症例.	あたらしい眼科30:92-96,2013
42	佐々木香る, 稲田紀子, 熊谷直樹, 出田隆一, 庄司純, 澤 充	眼科	緑膿菌角膜炎における臨床所見の検討-新しい代表的所見としてのブラシ状混濁の提言-	あたらしい眼科30:255-259,2013
43	大橋裕一, 内尾英一, 海老原伸行, 岡本茂樹, 熊谷直樹, 庄司純, 高村悦子, 中川やよい, 南場研一, 福島敦樹, 藤島 浩, 宮崎大, 春季カタル治療薬研究会	眼科	免疫抑制点眼薬の使用指針 春季カタル治療薬の市販後全例調査からの提言.	あたらしい眼科30:487-498, 2013
44	中島正巳, 能谷聡子, 佐々木郁恵, 中島基宏, 石森 秋子	眼科	黄斑円孔を形成したvon Hippel病による網膜毛細血管腫の1例 硝子体液中血管内皮増殖因子濃度と網膜前膜の免疫組織化学的検討.	眼科55:85-91,2013
45	立花敦子, 砂川 恵伸, 加島陽二	眼科	涙点プラグによる涙道合併症.	眼科55:405-409,2013
46	原田奈月子, 山田 愛, 崎元 丹, 加島陽二	眼科	園芸用支柱による上眼窩裂症候群の1例.	眼科55:843-847,2013
47	能谷聡子, 堀 眞輔, 加島陽二	眼科	眼球運動障害を併発した視神経周囲炎の1例.	眼科55:961-966,2013
48	堀 眞輔, 庄司純, 稲田紀子, 澤 充	眼科	感染性角膜炎における涙液中ケモカインの検討.	日眼会誌117:117-125,2013
49	早水扶公子, 山崎芳夫	眼科	正常眼圧緑内障での乳頭サイズの視野障害進行への影響.	日眼会誌 117 :609-615, 2013
50	中島基宏, 稲田紀子, 加藤博司, 庄司 純, 澤 充	眼科	涙液中緑膿菌特異的分泌型IgA抗体の検討.	日眼会誌117:996-1003, 2013
51	佐々木香る, 稲田紀子, 熊谷直樹, 出田隆一, 庄司純, 澤 充	眼科	緑膿菌角膜炎における臨床所見の検討-新しい代表的所見としてのブラシ状混濁の提言-	日本眼感染症学会誌8:4-8,2013
52	吉田 淳, 原 雄将, 佐藤幸裕, 川島秀俊	眼科	裂孔原性網膜剥離に対する強膜内陥術後に生じた交感性眼炎の1症例.	日本眼炎症学会誌15:25-29,2013
53	山田 愛, 大澤 彰, 菅谷哲史, 堀 眞輔, 木全奈都子, 山崎芳夫	眼科	線維柱帯切除術後の濾過胞炎に対し僚眼からの結膜弁移植術が有効であった2症例.	臨眼67:1133-1137,2013
54	佐久間 朋	皮膚科	腎癌の頭部皮膚転移上に生じた偽性皮膚ハエ症の1例	皮膚科の臨床 2013;55(5):657-660
55	佐久間 朋	皮膚科	頭部に生じた皮下葉状毛細血管の1例	皮膚科の臨床 2013;55(8):1074-1075
56	車谷 紋乃	皮膚科	大腿部に紫斑からクリオグロブリン決勝を伴う濾胞性リンパ腫の診断に至った1例	臨床皮膚科2014:68(1):60-64

57	草谷 紋乃	皮膚科	粉瘤様外観を呈し皮下に生じた基底細胞癌と粉瘤の併存例	臨床皮膚科67巻4号 Page353-356(2013.04)
58	木村 久美子	皮膚科	皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の再診研究動向-IV有棘細胞癌 有棘細胞癌の検査・診断 診断「臨床症状からの診断」	日本臨床2013;71(4): 479-482
59	梅田 さやか	皮膚科	皮膚慢性移植片対宿主病(GVHD)に対するナローバンドUVB療法	臨床皮膚科2014;68 (5):105-109
60	梅田 さやか	皮膚科	プフェキサマク含有クリームを顔面塗布後に咽頭浮腫を合併した接触皮膚炎症候群の1例	皮膚科の臨床2014;56 (1):65-69

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 ・ 日本大学医学部附属板橋病院における【臨床研究等の実施】に係る標準業務手順書 ・ 日本大学医学部附属板橋病院における【臨床研究等の審査】に係る標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 ・ 委員会の任務, 研究等の実施に係る手続, 委員会における審議事項, 守秘義務, 情報公開	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回 (平成26年4月以降実施)

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容<ul style="list-style-type: none">・ 「いまさら人に聞けない統計解析」・ 「臨床研究申請業務のIT化「臨床研究申請システム導入について」・ 「臨床研究電子申請システム導入について」・ 「臨床試験の成功に向けて」	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

高度医療に対する研修を実行するため、医学部の学系・分野と協力しながら専門医取得のための後期研修プログラムを各診療科で作成している。内科、外科については、サブスペシャリティ領域ごとに専門医を取得できるように、いくつかのプログラムを選択できるようなシステムを構築している。内科については、初期臨床研修2年終了後、3年目に内科共通プログラムを1年行い、その後、それぞれの専門医にあったプログラムを選択するようにしている。外科も同様に、外科専門医を取得後、サブスペシャリティ領域の専門医を取得できるようなローテートを構築している。

2 研修の実績

研修医の人数	231.6人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
相馬 正義	内科	部長	35年	
増田 英樹	外科	部長	37年	
橋本 修	呼吸器内科	部長	37年	
武井 正美	血液内科	部長	33年	
相馬 正義	腎臓・内分泌内科	部長	35年	
森山 光彦	消化器・肝臓内科	部長	33年	
石原 寿光	糖尿病・代謝内科	部長	26年	
亀井 聡	神経内科	部長	34年	
平山 篤志	循環器内科	部長	37年	
内山 真	精神科	部長	34年	
高橋 昌里	小児内科、新生児内科	部長	37年	
照井 正	皮膚科	部長	32年	
高山 忠利	消化器外科	部長	34年	
塩野 元美	心臓外科	部長	35年	
前田 英明	血管外科	部長	31年	
村松 高	呼吸器外科	部長	31年	
越永 従道	小児外科	部長	31年	
天野 定雄	乳腺・内分泌外科	部長	37年	
仲沢 弘明	形成外科	部長	31年	
吉野 篤緒	脳神経外科	部長	28年	
徳橋 泰明	整形外科	部長	34年	
山本 樹生	産婦人科	部長	37年	
高橋 悟	泌尿器科	部長	29年	
山崎 芳夫	眼科	部長	34年	
古阪 徹	耳鼻咽喉科	部長	36年	
阿部 修	放射線科	部長	24年	
鈴木 孝治	麻酔科	部長	25年	
杉谷 雅彦	病理診断科	部長	34年	
木下 浩作	救急科	部長	27年	
吉田 美昭	歯科口腔外科	部長	35年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

急変時の対応, Rapid Response System (RRS), 化学療法レジメン登録の目的と運用

・研修の期間・実施回数

各会 計4日, 1回

・研修の参加人数

計1525名, 計1648名, 計1615名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

BCP（事業継続計画）について, 個人情報・情報管理について

・研修の期間・実施回数

各会 計4日, 1回

・研修の参加人数

計1525名, 計1615名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 増田 英樹
管理担当者氏名	事務長兼庶務課長 榎並 修一, 医事課長 小峰 勝 病歴課長 伊東 徳安, 医学部庶務課長 小林 勝幸 医薬品安全責任者 吉田 善一, 医療機器安全管理責任者 遠藤 裕二

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課 病歴課	日別, 年度別, 種類別等に管理保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績	病歴課 当該診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病歴課 当該診療科	
	高度の医療の研修の実績	当該診療科	
	閲覧実績	病歴課 庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課 庶務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 庶務課	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項及び第九條の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室 庶務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室 庶務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 医事課 庶務課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染予防対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部 庶務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	中央放射線部 臨床工学技士室 庶務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	事務長兼庶務課長 榎並 修一	
閲覧担当者氏名	事務長兼庶務課長 榎並 修一, 会計課長 長田 剛 医事課長 小峰 勝, 病歴課長 伊東 徳安 資材課長 石川 誠, 医学部庶務課長 小林 勝幸	
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・会議室	
閲覧の手続の概要 公文書で病院長宛に依頼分文・照会をいただき, その諾否を病院執行部が判断する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 1件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び完全管理指針）（平成12年3月制定，平成26年4月改訂）</p> <p>② 安全管理体制組織運営</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，平成24年7月改訂）・ リスクマネジャーに関する規則（平成16年1月制定）からセーフティマネジャーに関する規則と名称変更（平成18年9月改訂）また、諸規則に記載されている「リスクマネジャー」は「セーフティマネジャー」と読み替えて運用。・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定，平成26年4月改訂） <p>③ 安全管理体制確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定，平成26年4月改訂）・ 医療事故対策特別委員会規則（平成12年5月制定，平成17年11月改訂） <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none">・ インシデント・アクシデント・不具合事象（合併症）報告運用規則（平成12年5月制定，平成26年4月改訂）・ インシデント・アクシデントレポート不具合事象（合併症）報告フローチャート（平成12年5月制定，平成13年2月改定，平成13年4月改定，平成16年1月改定）・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定，平成19年9月改訂） <p>⑤ 患者相談室窓口運用要項（平成15年10月制定，平成25年12月改定）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 患者相談窓口フローチャート	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>「医療安全管理委員会」は医療安全管理室長を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部）・事務部門から選出された委員（セーフティマネジャー）により構成されている。定例で月1回の会議を開催し、当院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年3回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。</p> <p>下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施。</p> <p>① 平成25年6月3日（月），4日（火），12日（水），13日（木） ※第1回医療安全講習会 「当院における昨年度の医療事故の傾向」他</p> <p>② 平成25年11月6日（木），8日（金），11日（月），12日（火） ※第2回医療安全講習会 「電子カルティインシデント・アクシデントシステム」他</p> <p>③ 平成26年3月10日（月），11日（火），12日（水），13日（木） ※第3回医療安全講習会 「ヒューマンファクターズ（ビデオメッセージ）」他</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。
 - ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ① インシデント・アクシデントレポートによる速やかな報告の推進。平成18年度からインシデントレポートシステムを導入しオンライン化を図った。
 - ② 提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディアアクセスなどから事例を収集・把握し、情報を得ている。また、上記情報を踏まえて、医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、レベルの高い事故事例についてはセーフティ・マネジャー事例検討会に付託し、詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。
 - ③ 24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置。
 - ④ 医療安全管理室室員の連携（情報交換）をとるために、週1回の連絡会を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。
 - ⑤ 専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びリスクマネジャーとの連携をとっている。
 - ⑥ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧で読んだことを証明してもらうため、確認票も添付し、そこにサイン（押捺）させ、医療安全管理室で確認票を収集・管理している。
 - ⑦ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者も集めて「特別症例検討委員会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 有 (2 名) ・ 無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 有 (5 名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 有 無

- ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (12) 名
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 医療安全管理室を設置し、医療安全管理委員会において検討された方針に基づき、組織横断的観点から安全管理対策を企画・立案・実施及び改善を図る。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 有 無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無														
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本理念，基本方針，専任者の配置，感染防止対策委員会の設置，職員の研修，感染症発生時の報告，感染症発生時の対策，閲覧について，連絡先，その他 															
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回														
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内の感染症情報の共有，針刺し切創・皮膚粘膜曝露件数の共有，抗MRSA薬使用状況及び抗菌薬使用状況の共有，菌検出状況薬剤感受性統計，感染対策講習会の準備（企画）と開催，参加状況の把握，感染対策マニュアルの改訂，医療安全ポケットマニュアル第8版の作成，標準予防策の手指衛生行動の評価：手洗いラウンド，ワクチン接種について 															
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回														
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="1" data-bbox="220 904 1353 1921"> <tr> <td data-bbox="220 904 544 1048"> <p>講習会 1 2013 年 5/29 (水) 16:30～ 17:30～ 6/10 (月) 17:30～</p> </td> <td data-bbox="544 904 1353 1048"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 感染症トピックス ・ 新しい届出感染症、風疹情報 ・ エビネット報告、手指消毒剤の使用量(2012) ◆ 環境清掃：環境清拭クロスの紹介 ◆ 感染防止対策クイズ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1048 544 1216"> <p>講習会 2 7/23 (火) 17:30～ 8/22 (木) 15:30～ 16:30～ 17:30～</p> </td> <td data-bbox="544 1048 1353 1216"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 経路別予防策の徹底—接触感染予防策(多剤耐性菌対策) ・ 当院における耐性菌発生情報 ・ 医療(針刺し)事故後のHIV感染防止 ・ 個人防護具(手袋・エプロン) ◆ 感染防止対策クイズ ◆ DVDによる補講(8/22 (木) 15:30～) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1216 544 1361"> <p>講習会 3 9/27 (金) 16:30～ 17:30～ 10/21 (月) 17:30～</p> </td> <td data-bbox="544 1216 1353 1361"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 経路別予防策の徹底—空気感染予防策 ・ 個人防護具(N95マスク) ・ 潜在性結核感染症 ◆ 感染防止対策クイズ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1361 544 1559"> <p>講習会 4 11/29 (金) 15:30～ 16:30～ 17:30～ 12/10 (火) 16:30～ 17:30～</p> </td> <td data-bbox="544 1361 1353 1559"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 経路別予防策の徹底—空気感染予防策 ・ 個人防護具(N95マスク) ・ 潜在性結核感染症 ◆ 感染防止対策クイズ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1559 544 1675"> <p>講演会 5 2014 年 1/21 (火) 17:30～</p> </td> <td data-bbox="544 1559 1353 1675"> <p>特別講演 (院外講師)：</p> <p>「耐性菌を出さない、広げない感染症診療」 亀田メディカルセンター 総合診療・感染症科部長 細川直登先生</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1675 544 1783"> <p>2/26・3/4・3/6・3/7 9回</p> </td> <td data-bbox="544 1675 1353 1783"> <p>DVDによる講習会 DVD貸出 医局で講習会参加 ビデオ講習会の参加 DVDによる補講</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="220 1783 544 1921"> <p>新入職時の研修 4/4 (木) 15:10～16:25 4/5 (金) 14:00～17:30</p> </td> <td data-bbox="544 1783 1353 1921"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 感染予防対策の重要性 ◆ 感染対策指針 ◆ 標準予防策・経路別予防対策について ◆ 感染症例診断の基本 ◆ 標準予防の実際：演習 </td> </tr> </table>		<p>講習会 1 2013 年 5/29 (水) 16:30～ 17:30～ 6/10 (月) 17:30～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 感染症トピックス ・ 新しい届出感染症、風疹情報 ・ エビネット報告、手指消毒剤の使用量(2012) ◆ 環境清掃：環境清拭クロスの紹介 ◆ 感染防止対策クイズ 	<p>講習会 2 7/23 (火) 17:30～ 8/22 (木) 15:30～ 16:30～ 17:30～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 経路別予防策の徹底—接触感染予防策(多剤耐性菌対策) ・ 当院における耐性菌発生情報 ・ 医療(針刺し)事故後のHIV感染防止 ・ 個人防護具(手袋・エプロン) ◆ 感染防止対策クイズ ◆ DVDによる補講(8/22 (木) 15:30～) 	<p>講習会 3 9/27 (金) 16:30～ 17:30～ 10/21 (月) 17:30～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 経路別予防策の徹底—空気感染予防策 ・ 個人防護具(N95マスク) ・ 潜在性結核感染症 ◆ 感染防止対策クイズ 	<p>講習会 4 11/29 (金) 15:30～ 16:30～ 17:30～ 12/10 (火) 16:30～ 17:30～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 経路別予防策の徹底—空気感染予防策 ・ 個人防護具(N95マスク) ・ 潜在性結核感染症 ◆ 感染防止対策クイズ 	<p>講演会 5 2014 年 1/21 (火) 17:30～</p>	<p>特別講演 (院外講師)：</p> <p>「耐性菌を出さない、広げない感染症診療」 亀田メディカルセンター 総合診療・感染症科部長 細川直登先生</p>	<p>2/26・3/4・3/6・3/7 9回</p>	<p>DVDによる講習会 DVD貸出 医局で講習会参加 ビデオ講習会の参加 DVDによる補講</p>	<p>新入職時の研修 4/4 (木) 15:10～16:25 4/5 (金) 14:00～17:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 感染予防対策の重要性 ◆ 感染対策指針 ◆ 標準予防策・経路別予防対策について ◆ 感染症例診断の基本 ◆ 標準予防の実際：演習
<p>講習会 1 2013 年 5/29 (水) 16:30～ 17:30～ 6/10 (月) 17:30～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 感染症トピックス ・ 新しい届出感染症、風疹情報 ・ エビネット報告、手指消毒剤の使用量(2012) ◆ 環境清掃：環境清拭クロスの紹介 ◆ 感染防止対策クイズ 														
<p>講習会 2 7/23 (火) 17:30～ 8/22 (木) 15:30～ 16:30～ 17:30～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 経路別予防策の徹底—接触感染予防策(多剤耐性菌対策) ・ 当院における耐性菌発生情報 ・ 医療(針刺し)事故後のHIV感染防止 ・ 個人防護具(手袋・エプロン) ◆ 感染防止対策クイズ ◆ DVDによる補講(8/22 (木) 15:30～) 														
<p>講習会 3 9/27 (金) 16:30～ 17:30～ 10/21 (月) 17:30～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 経路別予防策の徹底—空気感染予防策 ・ 個人防護具(N95マスク) ・ 潜在性結核感染症 ◆ 感染防止対策クイズ 														
<p>講習会 4 11/29 (金) 15:30～ 16:30～ 17:30～ 12/10 (火) 16:30～ 17:30～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 経路別予防策の徹底—空気感染予防策 ・ 個人防護具(N95マスク) ・ 潜在性結核感染症 ◆ 感染防止対策クイズ 														
<p>講演会 5 2014 年 1/21 (火) 17:30～</p>	<p>特別講演 (院外講師)：</p> <p>「耐性菌を出さない、広げない感染症診療」 亀田メディカルセンター 総合診療・感染症科部長 細川直登先生</p>														
<p>2/26・3/4・3/6・3/7 9回</p>	<p>DVDによる講習会 DVD貸出 医局で講習会参加 ビデオ講習会の参加 DVDによる補講</p>														
<p>新入職時の研修 4/4 (木) 15:10～16:25 4/5 (金) 14:00～17:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 感染予防対策の重要性 ◆ 感染対策指針 ◆ 標準予防策・経路別予防対策について ◆ 感染症例診断の基本 ◆ 標準予防の実際：演習 														

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ・ 感染症発生時、細菌検査室から主治医へ、と同時に隣室の感染予防対策室の専従感染管理者へ報告があり、現場へ直ちにラウンドし情報の共有・感染対策の強化について検討と確認を行っている。速やかな報告書の提出が可能となった。
- ・ 標準予防策と経路別感染予防の遵守の状況を毎週ラウンドで検証している。
- ・ 手指衛生月間（ポスター掲示）を設け、ICC手洗い評価ラウンドを年2回実施。
- ・ ICLN活動として、自部署のスタッフのブラックライトを用いて手指衛生評価の実施。（チェックリストによる手指衛生手順・タイミングの評価）
- ・ 病棟ICLNの活動として各部署の手指衛生行動の評価：手指消毒剤の使用量の測定。
- ・ 院内における手指消毒剤の払い出し量のサーベイランスの実施・部署へフィードバック、少しずつであるが使用量の増加となった。
- ・ 8部署の病棟で手指衛生の直接観察法を実施し5つのタイミングの何が不十分であるかを分析し改善へと繋げた。
- ・ 順次、病棟トイレの改修工事（ゾーニングによる環境整備）
- ・ CAUTIサーベイランス（血液・膠原病内科，泌尿器科，脳神経外科の3部署），ICUにおけるVAPサーベイランス実施。
- ・ 蓄尿者の数を制限し，採尿カップを紙カップとし汚物処理室の環境整備に努めた。
- ・ 感染防止対策講習会の内容の充実，参加率向上への取り組み
- ・ 医師，看護師，薬剤師，検査技師による抗MRSA適正使用検討会・ラウンドを週2回実施し耐性菌感染症対策に努めた。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 化学療法レジメン登録の目的と運用・ 電子カルテ導入後における麻薬・向精神薬・筋弛緩薬の注射処方オーダーおよび運用について・ 持参薬、注射薬の円滑な運用について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有)・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 薬剤管理委員会の委員2～3名で定期的(最低月1回)に病棟や外来をラウンドし、手順書にそったチェックを行い、必要とあれば改善などの指摘をする。・ 報告書を作成し、医療安全管理室に提出する。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 「持参薬指示オーダーのタイミングについて」各部門への情報提供並びに情報確認票の提出による周知を行った。また、収集した情報は随時必要に応じて紙媒体による院内への配布や電子カルテ上のトップ画面に掲載し周知を行っている。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療機器の有効性・安全性に関する事項医療機器の使用法に関する事項医療機器の保守点検に関する事項医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項新しい医療機器の導入時の研修医療機器の使用方法に関わる放射線治療のリスクマネジメント医療機器の非常時の処置方法	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">計画の策定 (有・無)保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">保守点検の計画・実施表作成定期点検 (各医療機器のマニュアルに沿った期間で行う)日常点検 (始業点検, 使用後, 修理後, 使用中等) の実施及び記録高エネルギー放射線発生装置: 定期点検, 年4回 メーカーに依頼診療用放射線照射装置 (RALS装置): 定期点検, 年2回 メーカーに依頼各機器のマニュアルに沿った期間で定期点検を行う (人工呼吸器, 輸液ポンプ, シリンジポンプ等, 一部の機器は臨床工学技士が行い, その他の機器はメーカーに依頼する)	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">メーカーからの安全使用に関する情報通知内容を関係職員に回覧し, 情報の共有化を図っている。また, 安全情報をファイルし, 適宜閲覧可能とする。メーカーからの改修・注意事項に則り適宜改修を行っている。治療計画装置の安全使用を図るために, 保守契約項目にソフトバージョンアップを含め, 常に最新のソフトを使用している。病棟巡視を行い, 病棟で使用中の機器の確認・目視点検・動作確認を行っている。特に人工呼吸器に関しては, 使用の際に臨床工学技士による装着点検を行っている。医療安全管理室と連携を取り医療機器安全情報として随時, 機器の取扱いの注意点等をポスター及びチラシ等を発行し, 各病棟に配布している。看護師の希望対象者に対して, 医療機器の取扱い等の研修を毎月行っている。また, 全看護師対象に, 人工呼吸器, DC等のワンポイント公衆を随時開催し, 機器の安全使用に必要な知識を伝達している。	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・公益財団法人 日本医療機能評価機構 平成26年9月26日～28日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・医療連携制度登録医療機関及び近隣医療機関に対して最新医療情報や各診療科での診療実績、取り組み状況等を掲載した会報誌を年3回発行して情報発信を行っている。また、定期的に公開講座を開き、区民等に対して情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・初診救急患者については、初期対応を総合科が行い、専門領域での診療が必要な場合には各診療科と連携を行い対応している。また、治療方針の決定等で、診療科単独での判断が困難な場合には複数診療科でカンファレンスを行い、患者にとって最良な治療方針を検討している。	